

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103338		
法人名	有限会社 すみれの里		
事業所名	グループホーム すみれの里		
所在地	長崎県長崎市富士見町15番5号		
自己評価作成日	平成28年2月9日	評価結果市町村受理日	平成28年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

6床から8床に定員を増床しましたが、以前と変わらず女性だけの入所者で構成されているグループホームです。入居者の変更もこの2年間で1名と少なく、皆さん元気に過ごされています。日頃からの医療連携が保たれていると思います。併設の小規模多機能事業所の利用者との交流もあり、誕生日会やお出掛けなども合同に行なっている。8人だけの世界にならず他者との交流があり、良い刺激になっていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は系列グループの他事業所と併設し、利用者は互いに行き来しており交流している。毎月の外部講師による研修は多岐に渡り、職員の質の向上を目指し、より良い支援へと繋げている。今年度より「母の日」「父の日」「敬老の日」に家族を招待し、職員と家族、家族同士の交流の機会となっている。この交流は、事業所への理解を深め、家族の意見の抽出や利用者と家族を繋ぎ、家族同士が思いを共有する場となっている。協力医による毎日の往診や夜間の対応があり、歯科、眼科の往診や週一回の訪問看護など医療連携が整っている。又、夜勤専門職員は全員が看護師であり、利用者の健康管理や急変時、看取りなど利用者や家族の安心に繋がっている。職員間は互いに支援について注意し合える信頼関係があり、理念に沿った支援に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和。理念に従って職務を行うように努力している。新しく入った職員にも理念を理解してもらう。全員が同じ方向を向いて仕事をしたいけるように心がける	併設の事業所と共通の理念があり、職員は毎朝、唱和し、新人職員には採用時に説明し周知している。地域行事に利用者と一緒に参加したり、利用者と目線を合わせて笑顔で会話したり、寝たきりの利用者には声掛けを多くするなど、職員は理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており自治会主催のゲーム大会や昼食会等に参加している。近隣の公園等にも散歩に出掛けたりしながら地域の方に挨拶したり、声掛けを行なっている	自治会に加入しており、自治会便りが届いている。自治会員として、市民大清掃に参加したり、毎日、事業所近辺の道路を職員が掃除している。自治会主催の食事会やゲーム大会に毎回、利用者と一緒に参加し、地域夏祭りを手伝うなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長に参加して頂きながら他の役員様や、民生委員などの地域に関わり合いの多い方に参加して頂けるようにしていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・自治会長・地域包括支援センター長等の方々に参加いただきサービスの向上に生かしている	2ヶ月毎に、規程の構成委員の参加で開催している。事業所の報告の他、自治会の行事の案内や行政の助言、家族の発言があり、活発な意見交換の様子が議事録から窺える。委員の提案で、ヒヤリハットの報告に取組むなど反映がある。議事録は欠席の委員や家族にも配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題や質問等を相談させて頂き、より良い生活を支援できるように連携を図っている。また年1回の会相談員の受け入れを行ないながら相談にのって頂いている	行政には、運営上の分からないことなどを日常的に電話を掛けたり、窓口に出掛けており、担当者とは顔なじみとなっている。又、行政主催の研修に参加したり、介護相談員を受入れている。地域包括主催の地域研修会にも参加しており、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄閉の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部で行なう研修で外部有識者による講習を行いながら身体拘束・虐待に対して全職員が身体拘束・虐待の無い支援が出来る様になっている	外部講師を招き、身体拘束の内部研修を実施している。又、身体拘束廃止推進委員の講習に職員を派遣し、職員ミーティング時に報告し、周知徹底を図っている。気になる時は職員同士で注意し合い、利用者が外に出た時は、職員が付き添うなど拘束の無い支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じように有識者による勉強会で学びながら認識を高めている。日頃より虐待や拘束について考えながら業務を遂行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部有識者に講師になって頂き勉強会を開いている。成年後見人の利用も3名いるのでそれぞれの後継人の役割など理解しながら支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書や重要事項説明書等を十分説明して理解して頂いている。疑問や不安な事がある場合はその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しており、面会時には家族と話している。意見等はケースカンファレンス・運営推進委員会等に反映させて頂き、十分に意向に沿えるようにしている	「家族の相談・苦情の受け付け」を明文化し、契約時に家族へ説明している。家族の意見や要望は面会時に聞くことが多く、職員は管理者へ伝え、又、ミニカンファレンスにて職員間で共有している。今年度は3回、家族参加の行事を実施し、交流を深め意見の抽出に繋げている。利用者の支援に対する要望など反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミニカンファレンスまた、月1回の全体ミーティングで意見を出してもらえるような環境づくりをしている	職員は、毎月、代表が参加する併設事業所合同のミーティングや毎日のミニカンファレンス、業務中などに意見や要望を伝えている。管理者は職員の希望休暇や有給休暇など聞き取り反映し、気になる職員は個別に面談するなど気配りしている。職員の提案から新たな介助支援方法の導入など実践に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を出せるような環境づくりをしながら業務上の問題点を話し合えるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の外部有識者の勉強会を行なっている。外部の研修にも積極的に参加出来る様にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会からは退会したままだが外部勉強会に参加する事で同業者との交流を図れるように努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人と充分話をしながら情報を取り入れながら、そこで得た情報を職員間で共有し、信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を聞く機会を多く作る様に努力している。電話等を利用してより多く情報を頂ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、家族や職員で話し合い素早く対応出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の気持ちを職員全員で共有している。入居者から色々勉強させて頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換しながら生活状況を把握して頂くように努力している。家族の思いを大切にしながらより良いサービスが出来る様に関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの物を持参して頂いたり、面会・電話・手紙等本人の要望に応じて対応している。また毎年入居者の出来る範囲で年賀状を家族に送っている	職員は利用者の生活歴を把握し、暑中見舞いや年賀状の作成、電話を掛けることなどを支援している。家族や職場の同僚、自宅近所の住民の面会があり、事業所は訪問し易い雰囲気作り心掛けています。家族の協力で馴染みの美容院へ行ったり、外食を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	助け合ったり、支えあったりする場面もみられる時がある。トラブル等にならない様に見守ったりしながら関係性の維持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても何時でも相談して頂けるように連絡したり関係が途切れない様に努力している。昨年亡くなられた元入居者の家族に七七日にはお花を贈り、一周忌にも花を贈る予定にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族・友人等から情報収集してその人らしい生活を送って頂ける様にしている。	職員は利用者と一緒にゆっくり会話する時間を持ち、思いを聞き取っている。表出困難な利用者は表情や仕草、顔きなどで判断している。聞き取った情報はミニカンファレンスで報告し、記録へ残し、職員間で共有している。起床や朝食時間は利用者の希望に合わせて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し送り時、個人記録、ミニカンファ等で情報を共有すると共に変化や状態の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時、個人記録、ミニカンファ等で情報を共有すると共に変化や状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り、個人記録、ミニカンファ等で情報を記録して状態等の変化に努めている。家族への聞き取りや本人の要望等を計画に反映している。	長期6ヶ月・短期3ヶ月で介護計画を作成し、見直し時の家族の要望は電話や面会時に聞き、毎回、アセスメントを取り直している。計画は家族の同意を得て実施している。モニタリングは3ヶ月毎に取り、毎月職員参加のカンファレンスを開き、支援内容を検討している。しかし、記録からは介護計画の実践状況が確認しにくい。	介護計画は日々の支援の基本であり、実践状況が分かる記入方法やフォーマットの見直しなど、記録と支援の連動の更なる工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やミニカンファレンスなどで情報を共有し毎日のミニカンファレンスで話しながら支援し、計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地元長崎で行われるお祭りや行事など見物したり、散歩やドライブなどにも出掛けている。また日常生活の中での料理の下ごしらえやテーブル拭き、お盆拭き等を一人一人の状況に応じて手伝って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており自治会主催のゲーム大会や昼食会等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日連携医療機関より往診に来て頂きながら、急変時なども対応して頂いている。病状によっては他科への受診も想定されるので紹介状等書いて頂きながら対応して頂いている。	かかりつけ医は家族や利用者の意向に沿っているが、往診がある協力医へ移行の希望が多く、現在、利用者全員が協力医である。協力医は毎日往診しており、緊急時対応について24時間体制も構築している。又、歯科、眼科も必要に応じて往診がある。診療後は家族へ報告し、変更内容は記録へ残し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとも契約しているので週一回の訪問をお願いしている。状況をお知らせし相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師また地域連携室と連絡を取っている。退院後の支援に生かしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期の方針について指針を作成しており、入所時に同意を得ている。医師・訪問看護と連携を取りながら家族・職員一緒に取り組んでいる	事業所は看取りを行う方針であり、「看取りに関する指針」を基に、契約時に家族へ説明し、同意の署名を得ている。利用者の状態の変化に合わせ、その都度、家族、医師、関係者で話し合い、家族の意向を確認し、同意の署名を得る手順がある。訪問看護、協力医とは24時間対応の連携を構築している。ただし、職員研修はこれからである。	事業所は近年看取りの事例が無く、経験の無い職員もいる。職員の不安軽減や看取りの捉え方などの研修に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会・勉強会に参加し、職員に伝えたり、年二回の総合訓練の時に消防職員に緊急時の対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	非常持ち出し品の整備はしているがどれだけの量など不明な点も多い。自然災害時のマニュアルの整備を早急に行いたい。訓練に対しては年間計画を立て行なっている平日に訓練を行なうため近隣住民の参加がない。声掛け等調整が必要。	年2回、消防署立会いの避難訓練を行い、内1回は夜間想定で併設事業所と合同で訓練している。又、毎月の自主訓練は利用者も参加し、消火訓練や夜間想定避難訓練を数多く実施し、職員へ周知を図っている。ただし、自然災害時のマニュアルや備蓄、非常持ち出し品の整備、夜勤専門職員の訓練参加、住民の協力体制はこれからである。	いつ発生するか分からない火災や自然災害に備え、各種の準備を整えることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを共有している。トイレ・入浴時の声掛けは一人一人の正確に合わせた声掛けを行なっている	職員は利用者を苗字にさん付けで、同姓の場合はフルネームで呼んでいる。排泄誘導時は羞恥心に配慮して声を掛けるなど尊厳を守る支援を心掛けている。又、採用時に守秘義務の誓約書を提出している。個人情報の取り扱いは、契約時に家族へ説明し、同意の署名を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動や行動を見ながら理解する事を心がける。また他の職員とも相談しながら一番良い方法を見つける努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って体調や様子を見ながら自分のペースで過ぎて頂ける様に支援する。朝食などの拒否があるときは時間を置いて声掛けしたり他の物を準備して食べて頂ける様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の美容師に来所を依頼してカットして頂いたり、毎日化粧水等をつけたり、髪をとかしたりしている。手にもハンドクリームを塗ったりしてコミュニケーションを兼ねたフットマッサージを行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きや下ごしらえ等をお手伝いして頂いている(出来る範囲で)おやつも職員と一緒に作ったりとしている。その日のメイン料理などの説明を行ない、興味を持っていただける様に努力している	配食業者と契約し、事業所で温めている。利用者に合わせて刻みやペースト状で提供している。月に1度、刺身の日を設け、誕生日にはちらし寿司やケーキなどの行事食もある。利用者はやしの根切りなど出来ることを手伝っている。併設事業所の利用者と一緒におやつを作ったり、家族と外食を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録を残し、医師や訪問看護の往診時に報告し。支持を受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には歯磨きセットを準備し声掛けを行なうその他の方は介助して口腔ケアを行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調、精神状態、排泄パターンを把握しなるべくパットではなく便器に座って頂く様にこまめにトイレ誘導を行なっている	職員は管理日報に排泄状況をチェックし、把握し共有している。日中はトイレでの座位排泄を基本とし、声掛け誘導している。又、排泄の自立支援を理解し、ミニカンファレンスで利用者の排泄状況を検討している。声掛け誘導によりパッド数が減少した事例や汚染がなくなった改善事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を残し2～3日排便が無い場合は主治医に相談し対応している。また水分補給、食事にも気を配り、毎日ヨーグルトや果物を摂る様にしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴の中で気分や体調を見ながらお誘いする。拒否があったときは入浴日に限らず好きな時に入っていただく。季節により菖蒲湯やゆず湯等にも楽しんで頂いている	週に2回、入浴の準備をしており、利用者の状態や気分や希望に合わせて支援している。拒否があった場合は無理強いせず、時間を置いたり、日を変えるなど工夫している。好みのシャンプー、リンスなどを使ったり、季節の柚子湯や菖蒲湯など楽しむ支援に努めている。又、脱衣所には暖房を設置し、温度差を作らないよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設けず一人ひとりの様子や希望に応じて声かけしたり、前の晩眠れなかった方には声かけをして休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者の薬について理解しており、薬が変更になった時にその都度受診記録に記載し、職員全員が把握している。服用時はスタッフ同士で確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き。また塗り絵、折り紙、ドライブ等利用者の希望に合わせて張りを持った生活が行なえるように支援している。金魚も飼っているのでえさをやったりと話掛けたりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・入居者の希望、体調を配慮しながらさんぽ、外気浴をしている。また気分転換も兼ねてドライブ、買物、季節の行事等に出掛けている。	ドライブ外食やおくんち見物、季節の花見に出掛けている。車椅子の利用者は状態を注視しながら支援している。天気の良い日は車椅子の利用者も一緒に、近くの公園へ散歩に行ったり、外気浴を楽しんでいる。又、利用者と一緒に買い物に出掛けることもあり、外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は一括して行なっているが外出などした時、職員と一緒に買物をする事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族に繋げる。年末に出す年賀状は出来るだけ本人の手を書けたものを出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア・居室には室温計を設置。室温調整や換気に気を配っている。月毎に壁面飾りや雛人形など季節に応じたものを飾っている	リビングの採光は程よく、飾り付けで季節を感じるよう工夫している。リビングにはテーブルやソファを配し、利用者は思い思いの場所で寛いでいる様子が窺える。毎朝、職員が掃除し、空調管理や感染対策に気配りしている。水槽の金魚には利用者が餌やりしており、本人の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間を囲んで居室がありソファでくつろいだり、思い思いに過ごせるようにしている。車椅子の方も食後は介助し移動して貰うようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前に使用していた馴染みの物や愛用品は持ち込んで頂き居心地欲暮らせるように工夫している	居室には備え付けのベッドや筆筒、棚があり整理整頓しやすい居室である。持ち込みは自由であり、利用者は愛用の筆筒や使い慣れた時計など馴染みの物を持ち込んでいる。職員は毎朝の掃除や空調管理し居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、手すりを利用して声掛けや見守りをしながら自立した生活を送れるようにしている。		